



2013年1月26日(土) ついに猫族の主導権を人間(J.H)にとられて、全員集合!表参道ヒルズ西館1F:ギャラリーコーワ「シュウ・ヤマモト CAT ART展」へ行ってまいりました。

展示品は名画の人間を猫に変えて描いたパロディ作品で、オリジナルは油彩・アクリル画ですが、その版画と本、カレンダー・ジグソーパズル等のグッズを販売していました。相変わらず現場で感想を喋りまくるJ.Hは感動で満腹すると飲食を忘れるので、この日は意気揚々と地下鉄に乗り一直線帰宅。おかげで吾輩たちは、楽しみにしていたお茶にもメシにもありつけませんでした。

さてシュウ・ヤマモトとはいかなる人物か?本名:山本俊一。外国人が呼びにくいので「シュウ」にしたとか。トロントでイラストレーターとして活躍。カナダ国籍取得。日本の法律が二重国籍を認めないため日本国籍返上。アメリカ永住権を獲得してソルトレイク市郊外在住。旅行業、翻訳業にも従事。右は彼の著書の表紙です(ヨハネス・フェルネーコ「真珠の耳飾りをした少女猫」)。



日本では初めての紹介(販売)だそうで、代表的なものだけの展示でしたが、下記の作品(原題で記す)が印象に残りました。他にミュシャ、フラゴナール、クリムトなどのパロディ作品もありました。展示作品は上枠内のフェルネーコ(=フェルメール)のように名前・原題を猫的に変換してあります。



フランス系: モネ「着物を着たモネ夫人」 アングル「グラント・オダリスク」 ルソー「夢」
ドガ「舞台の踊り子」 ルノアール「ピアノを弾く女たち」



イタリア系: ミケランジェロ「アダムの創造」



ドイツはないので**オランダ系:** フェルメール「真珠の耳飾りをした少女」
ヴァン・エイク(アイク)「アノルフィニ夫妻の結婚」



東海道五十三次ではなく猫街道三十三次の浮世絵がとてもきれいでした。(非売品)

そして何より面白かったのは「つるの恩返し」「桃太郎」「かぐや姫」の猫ヴァージョンが和紙に描かれ、それぞれ紙芝居のごとくストーリー付(12枚+表紙1枚構成)で展示されていたこと。**絵の表現力の素晴らしさはもとより、そのストーリーが知的ユーモアにあふれ、さらに善悪の教訓を含んでいて素晴らしかった!**

桃太郎のお婆さんは川の近くのコインランドリーで洗濯。かぐや姫はUFOに乗って宇宙に帰る。J.H.は現代文化を取り入れたユーモアに笑い、知的表現に感心し、教訓に頷く。「これが絵本で子供が読んだら、賢くセンス良く善良に育ちそう」と感心することしきり。今の荒れた世のオアシス!

上記枠内写真の本の中身は「古代・中世・東洋—ルネサンス—バロック—新古典主義(ネオ・クラシック)—ロマン主義—写実主義—印象主義(印象派)—20世紀美術」とジャンル分けされている。

美術ファンには馴染みの深い名画を網羅。作者不詳のアルタミラの壁画から始まり、古代エジプトの「イシスとネフェルティティ」→レオナルド・ダ・ヴィンチ、ボッティチェッリ、デューラー、ミケランジェロ、レンブラント、ベラスケス、ゴッホ、マティス、モディリアーニ、ピカソ、シャガールと挙げればきりが無い。アンディ・ウォーホル「キャンベル・スープ」〜ルネ・マグリットまで124点収録。

音楽関連絵画ではギリシャ神話「イアソンと黄金の毛皮」、古代ローマのモザイク「辻音楽師」、ローレックがブリュアンを描いた「アンバツサドゥール」と、クラシカル・ミュージックとシャンソン・フランセーズの猫世界を堪能できる。それぞれの頁に解説付。因みに発行所は(株)求龍堂。本の中の24枚+猫画2枚が一冊になったポスト・カードも販売している。猫好きの方はぜひどうぞ!

2013.1.30(水)まで。入場無料。12:00~19:00(最終日は17:30)メトロ・明治神宮前(原宿)5出口